

市町村対抗福島県軟式野球大会

敗戦の悔しさを胸に来年の雪辱誓う

福島民報社主催の第12回市町村対抗軟式野球大会が福島市の県営あづま球場ほか3球場で開催され、県内全59市町村の代表チームが熱戦を繰り広げました。

西会津町チームの試合は9月9日、県営あづま球場で行われ、猪苗代町チームと対戦しました。



町チームは、前年度の2回戦敗退の屈辱を果たすべく、早い時期から練習を開始し、選手一丸となつて2回戦突破

に向け取り組んできました。当日は、あいにくの雨天となり、試合開始が当初の午後1時から5時に変更になるなど、日程の大幅な遅れがありました。試合は初回に町チームが先制点を上げ、好調な滑り出しとなりました。しかし、3回に同点に追い付かれると、4回以降は相手に点を重ねられ、健闘しましたが1対6で初戦敗退となりました。午後7時の試合終了後、選手の方々は、「敗戦の悔しさを胸に、来年はこの雪辱を晴らそう」と、互いの健闘をたたえ合いました。

球場には、同日に開催した「市町村対抗福島県軟式野球大会応援ツアー」により、野球スポーツ少年団員をはじめ、多くの町民の皆さんが応援に駆け付け、熱気では猪苗代町を圧倒していました。

町民グランドゴルフ大会

9月17日、第21回町民グランドゴルフ大会をさゆり公園で行いました。近年は天候に恵まれず中止となっていたため、待望の、3年ぶりの開催となりました。

◎大会結果(敬称略)

〈一般の部〉

優勝Ⅱ山本文夫、第2位Ⅱ佐藤兵衛、第3位Ⅱ佐藤寅男、第4位Ⅱ佐藤弘、第5位Ⅱ五十嵐チ子、第6位Ⅱ和久井スミ子

〈小学生の部〉

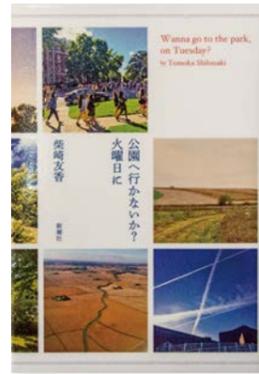
優勝Ⅱ齋藤光峰、第2位Ⅱ渡部虎太郎
優勝Ⅱ鈴木蒼士・利博



西中図書館 新刊オススメ本

『公園へ行かないか？ 火曜日に』

柴崎友香 [著]
新潮社



世界各国から作家や詩人たちがアメリカのアイオワ大学に集まって10週間過ごす、IWP (インターナショナル・ライ

ティング・プログラム) に参加した著者ですが、参加者の中で英語が断トツにできず、言いたいことのわずかしか伝えることができません。そんな環境の中で意識したのは、コミュニケーションの手段としての「言葉」の存在でした。

本書は、現地で著者自身がさまざまな体験から感じたことを描いた連作小説集です。

『見る力 アガワ流介護入門』

阿川 佐和子/大塚 宣夫 [著]
文藝春秋



『くすだま折り花百科』

久保 満里子 [著]
ブティック社



『ブロードキャスト』

湊 かなえ [著]
角川書店



『オスロ警察殺人捜査課特別班』

サムエル・ビョルク [著]
中谷友紀子 [訳]
ディスカヴァー・トゥエンティワン



町民ギャラリー わらべ糸

今月は、五十嵐 裕子さん (原) の作品です。

作品名

「つるし雛とウェルカム・ドール」

作品紹介

つるし雛は、江戸時代のころから“赤ちゃんのお守り”として各地に伝わってきました。たくさんの種類の人形(野菜や動物、玩具など)には、子どもの「無事」「侍せ」を願う家族の想いが込められています。

材料は、和服地や古布です。たんに眠ってきた大切な先祖様の品を活かして、かわいい、趣のある「つるし飾り」が出来上がります。

何気なく始めた「つるし雛」作りでしたが、ひと針ずつ縫い上げていく楽しさと、仕上がった作品の愛おしさは格別です。

「ウェルカム・ドール」は息子夫婦に。うさぎは「家内安全」「飛躍」の象徴と知りました。「ウェルカム!! ハッピー」です。

